

(様式2)

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書 (参加学生)

平成 25年 3月 18日

所属： 国際言語文化 国際コミュニケーション 学年 4年

氏名：小林幹子

研修先大学・機関名等 (国)： Karoly Gaspar University (Hungary)
Charles University (Czech)

在籍身分：学生

渡航年月日： 2013 年 2 月 27 日

帰国年月日： 2013 年 3 月 14 日

○研修先での学習内容等

- ・日本語学科の授業に参加し、現地の日本語教育の実態を把握する。
- ・東北地方の文化や方言をプレゼンし、相互理解を深める。
- ・現地の日本語学科の学生と街を散策し、欧州の文化を知る。

○研修期間の生活面について

- ・衣食住に不自由はしなかった。とくに、懸念された食文化の違いにはうまく順応できた。
- ・街歩きでは現地の学生が案内してくれたので、安全に実行することができた。

○研修期間全般にわたる感想

両大学では、現地の日本語を学習する学生と交流することができた。学生たちは真面目で真剣だった。その様子を見るだけでも、この旅行には大きな意義があると感じることができた。

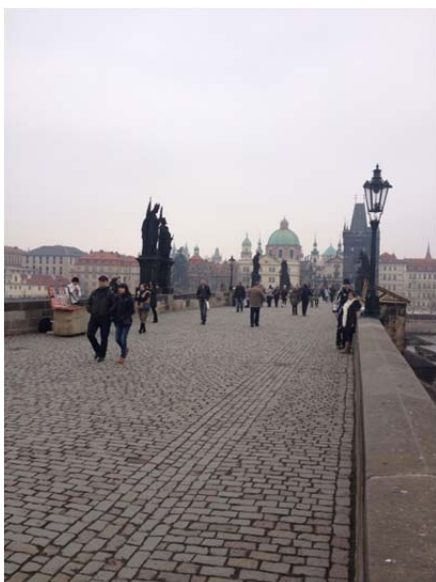
また、東欧の現状、教育の実態、日本との違いや共通点を知ることによって国際的な考え方や文化の違いの理解を獲得することができたと思った。とても意義のある旅行であった。

○今後の勉学計画

今回の旅行では、学生たちが日本語を勉強していたので会話はほとんど日本語で行われた。しかし、相手が日本語で表現するのが難しいときは英語も使われた。やはり、英語

(様式2)

の国際語としての力は圧倒的だと感じられた。国際言語文化過程の学生として英語をはじめとする言語をもっと勉強するべきだと感じた。そのため、私は今後も言語学習を主に勉強していきたい。



プラハのカレル橋